

薬剤耐性(AMR)対策部会設置について

静岡県立静岡がんセンター感染症内科 倉井華子

抗菌薬適正使用と薬剤耐性(Antimicrobial Resistance: AMR)対策は世界中で取り組むべき課題です。使用する市民、処方・説明する医療従事者だけではなく、行政、畜産業界、製薬業など様々な分野で手を取り合って向き合うべき課題です。各地域で職種を超えた連携が求められており、静岡でも2018年2月に静岡県発生動向調査委員会の下に、薬剤耐性(AMR)対策部会が設置されました。2019年1月に第1回委員会会議が開催され、私が本委員会の委員長を仰せつかりました。本原稿でAMR対策部会の紹介と就任の抱負を述べさせていただきます。

2017年3月より静岡県内で有志のチーム、静岡県耐性菌制御チーム(Antibiotic Awareness Shizuoka)として抗菌薬適正使用活動の推進を務めてきました。啓発活動やサーベイランス活動など中心に現在も活動を継続しています。感染症分野は幅が広く、皆様にお伝えしたい内容は数多くなります。県内様々な郡市医師会で講演会や会報誌などを用い、情報発信も行っています。2017-2018年で23の群市医師会のうち16の医師会で活動をさせていただいております。ただし、有志のチームでは活動の限界があり、行政組織としてAMR対策部会が静岡県に設置されたことをうれしく思っております。

抗菌薬適正使用という言葉は漠然としており、様々な解釈があります。私たちの考える適正使用とは、以下の4項目を主としています。

- ①抗菌薬が不要な病態では使用しないこと
- ②使用する場合は、有効かつ安全性の高い抗菌薬を用いること
- ③患者の未来、環境に影響が少ないできる限り狭域な抗菌薬選択を心がけること
- ④治療期間が適切であること

目指すゴールはシンプルであり、感染症で失う患者を減らすことです。「適切な感染症診療」が行われ、その結果不要な抗菌薬投与や耐性菌が自然に減少して行く姿が望ましいと考えています。

今回できたAMR対策部会の主な仕事は、診療所や小規模病院、介護施設など医療資源が少ない機関のサポートにあります。日本の医療現場の受診行動を見ると、症状がある患者の多くは診療所を受診しており、入院患者の30倍以上の患者を診療所が受け持っています。抗菌薬使用量サーベイランスデータでも国内でヒトに使用されている抗菌薬の9割が経口薬であり、日本のAMR対策を進めるためには診療所を含めた外来の抗菌薬適正使用が肝となります。

患者を多く抱える診療所や介護現場では医療資源もマンパワーも限られています。

病院と同じように診療や対策を行うことは困難です。また県内の耐性菌検出情報や、感受性率のデータも診療所には届けられていないのが現状です。私たち AMR 対策部会では、県全域の主要菌種の感受性率(アンチバイオグラム)を作成しました。県内の感受性率からどの抗菌薬ならば効果があるのか、避けるべき抗菌薬は何かの情報を届けたいと思っています。また、抗菌薬を選択いただく場合はできる限り、耐性菌を 広げない選択が望まれます。私たちは県の感受性率から、感染症別に専門家が推奨する抗菌薬処方例を手引きとしてまとめました。

発生動向調査委員会のホームページからアクセス可能です。診療の参考にしていただければ嬉しいです。( <https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-420a/amr.html> )

<https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-420a/documents/tenpu4tebiki20180730.pdf>

このホームページには、全国と比べた静岡県の抗菌薬使用量を開設した項目、国の薬剤耐性菌アクションプランの解説なども載せています。今後は小児版の経口抗菌薬選択の手引きなどの情報も追加、更新していく予定です。

静岡県は 2019 年にラグビーワールドカップ、2020 年にオリンピック・パラリンピック自転車競技の会場になります。国際イベントでは多くの外国人が訪日することから、普段見慣れない感染症が発生することも想定し、準備を進める必要があります。例えば、インフルエンザは日本では冬に流行しますが、南半球では日本と逆のシーズンに流行します。また赤道付近では 1 年を通じインフルエンザの患者が発生しています。国際的なイベントは夏に予定されており、インフルエンザを見逃す可能性があります。近年、三重県や大阪府では麻疹の集団発生が起こっています。渡航者が増えれば、静岡にも麻疹患者が発生する可能性が高くなります。クリニックを受診した場合は外来診療がストップする可能性もあります。こうした普段見ない感染症診療についても、私たちはサポートしたいと思っています。具体的には、各種言語に対応した問診シート、忙しい診療の中でも数分で疾患のことが理解できるコンテンツ作りなどです。

また市民の感染症や抗菌薬に対する意識向上も私たちの重要な課題ととらえています。

静岡県内でも麻疹や風疹の散発例があります。予防接種を確実にすること、手洗いなど家庭内でもできる感染症予防策は多くあります。市民の方々と感染症について、微生物について医療現場でディスカッションできるようになるのが私たちの夢です。

始まったばかりの活動ですが、皆様のご意見をいただきながら静岡県の感染症診療が全国に誇るべき姿になることを目指し、精一杯努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。